

群 教 七	G02 - 02
	平 16. 218集

マルチメディア資料集「ぐんま歴史探検隊」の作成

— 県内の遺跡や文化財の教材化 —

長期研修員 黒澤 隆

《研究の概要》

本研究では、小学校の歴史学習及び中学校の社会科歴史的分野の学習に役立つ、群馬県内の遺跡や文化財を素材としたマルチメディア資料集「ぐんま歴史探検隊」を作成した。

作成にあたっては遺跡や文化財の歴史的な価値に気付き、学習のねらいが達成できるものとなるよう、動画や静止画の効果的な活用方法と構成を工夫した。児童はこの資料集を使用することで、遺跡や文化財の価値に気付き、郷土意識を高めることができた。

【キーワード：社会—小 中学校 歴史 地域教材 マルチメディア】

I 主題設定の理由

小学校の歴史学習では、主な歴史上の人物や代表的な文化遺産を中心に学ぶ。これは、初めて歴史を学ぶ子どもたちが、まず歴史に対する興味・関心をもち、歴史を学ぶ楽しさを味わい、その大切さに気付くようにすることを重視しているからである。また、中学校においても、身近な生活と関わる文化遺産を取り上げるとともに、風土的条件と文化的伝統及び現在との関わりに目を向けさせることが重視されており、特に近現代の文化遺産については、地域素材の教材化が群馬県の教育課題にもなっている。

群馬県内には、多数の遺跡や文化財が存在する。その中には、教科書に取り上げられているものやそれに匹敵するものも数多い。しかし、その分布には偏りがあり、見学のための移動にかかる時間的な制約が大きいと、多くの学校では学習に合わせて見学することは困難である。まして児童の興味・関心や課題解決の段階に合わせて繰り返し調査・見学を行うことは難しい。更に、一回の見学で児童生徒が得ることができる情報量には限りがあるため、せっかくの見学の機会が十分に生かされないことも多い。また、書物なども学術的・専門的なものが多く、児童生徒に分かりやすく学習に直接役立つものは、未だ充分とは言えない。

そこで、群馬県内の遺跡や文化財から教材に適したものを選び、現地を取材してその動画や静止画をコンピュータで表示できるようにするとともに、その遺跡や文化財の歴史的な価値に気付き、学習のねらいを達成できるよう構成を工夫した資料集にまとめることとした。これにより、教師が学習の展開に合わせて臨場感のある動画や静止画を簡単に提示できるようになること、見学に行けなくても児童生徒の興味・関心を高めたり、知識を広げ理解を深めたりできること、児童生徒の個々の課題に応じた調べ学習の際に使用できることなどが期待できる。そして、それが群馬県内の素材であることにより、自分たちの郷土をより深く知り、郷土の良さを改めて感じる契機とすることができるであろうと考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

群馬県内の遺跡・文化財を素材として、動画や静止画の活用方法と構成を工夫することで、児童生徒がそれらの歴史的な価値に気付き、郷土意識を高めることができるマルチメディア資料集を作成する。

Ⅲ 研究の見通し

次のような手だてをとれば、歴史の学習において、群馬県内の遺跡や文化財の歴史的な価値に気付き、郷土意識を高めることができるマルチメディア資料集「ぐんま歴史探検隊」が作成できるであろう。

- 教材化に適した遺跡や文化財を精選して現地取材を行うとともに、その歴史的な価値を焦点化させることができる動画や静止画、エピソードを収集する。
- 歴史学習における遺跡や文化財の歴史的な価値を明確にし、その部分に児童生徒が着目できるように、コンテンツの提示方法や資料の組み合わせ方などの資料集の構成や、コンテンツに加える解説方法を工夫する。

Ⅳ 研究の内容

1 資料集作成における基本的な考え方

(1) 歴史的な価値に気付かせるコンテンツ

遺跡や文化財の「歴史的な価値」とは、「当時のものが、今そこに存在する」ということと、そこに「当時の社会の様子や人々の生活、文化、技術などを知るための情報が含まれている」ということである。そして、その歴史的な価値の高さは、その遺跡や文化財が持つ過去に関する情報量の多さや正確さ、内容の重要性などにより決まってくるものである。

教材として遺跡や文化財を扱う際には、「その遺跡や文化財から分かる当時の社会の様子や人々の生活、文化、技術などの事柄」が、その学習のねらいに沿ったものでなければならない。そのため、遺跡や文化財を教材として取り上げる場合には、まず、学習のねらいとその遺跡や文化財から分かる事柄を照らし合わせ、学習のねらいに合った遺跡や文化財を選ぶことが重要と考える。

そして、次に重要となるのが、児童生徒にその資料が持つ歴史的な価値に気付かせ、そこから時代背景やそれに込められた人々の願いや思いなどを引き出していくことである。しかし、遺跡や文化財の映像コンテンツが、ただ漠然と撮影されただけのものでは、その資料が持つ歴史的な価値は伝わり難い。児童生徒がそれに気付くためには、映像コンテンツの中に歴史的な価値に直結する情報が含まれていることに加え、そこに目を向けさせるための適切な解説や構成の工夫が必要である。

本資料集の作成にあたっては、まず、単元のねらいを明確にしたうえで遺跡や文化財の持つ歴史的な価値と照らし合わせて、教材としての価値を確認した。次に、それをもとに、その遺跡や文化財の歴史的な価値を知る手掛かりが、映像としてどこに現れているかを確認しながらコンテンツを収集した。例えば富岡製糸場の場合、建物を構成するレンガや大きな木骨（柱や梁として使われている木材）、外国人技師が使用した建物などである。そこで、動画の撮影にあたっては、ズームやパン（カメラを横や上下に振りながらの撮影）などのカメラワークや、撮影場所を工夫することにより、歴史的な価値に繋がる部分に着目させるとともに、その遺跡や文化財が持つ全体像や特徴が伝わるよう配慮した。また、現地を見学したときの雰囲気を持たせるために、周囲の風景の収録や歩きながらの撮影を取り入れ、対象物の特徴を意識させるために、撮影するアングルや大きさ、時間などを適切なものとなるように配慮した。

(2) 地域素材の教材化

地域素材を教材化する場合、現地の見学が可能で直接体験を取り入れた学習ができる範囲のものを対象とすることが一般的である。「地域」の範囲を群馬県全域まで広げると、「実際に見学ができる」という意味での地域素材とは言えなくなる。しかし、「群馬県」を「自分たち

がその一員として暮らしている郷土」として認識できる児童生徒にとっては、現地の見学ができなくても地域素材として扱うことができると考える。

群馬県内の遺跡や文化財を教材として取り上げることで、児童生徒は、群馬県にも日本の歴史の中で時代を代表するような遺跡や文化財があり、それが当時を生きた人々の思いや願いの結晶として今でも大切にされていることを知ることができる。また、驚きや感動とともに自分たちの郷土の良さに気付くことができる。そのことは、自分の住む地域に誇りと愛着を感じることへと繋がり、そのような気持ちを持てるようになったときに、群馬県に対する「郷土意識が高まった」と考える。

2 資料集の構成

本資料集では、群馬県内の遺跡や文化財の中から、小中学校の教科書に取り上げられているもの、またはそれに匹敵する教材としてふさわしい歴史的な価値を持つものを吟味・精選し、「岩宿遺跡」「古墳」「上野国分寺跡」「富岡製糸場」を取り上げた（表1）。

表1 本資料集で取り上げる遺跡や文化財とその歴史的価値

	遺跡や文化財	所在地	遺跡や文化財の歴史的価値
I	岩宿遺跡	笠懸町岩宿	日本考古学史上画期的な発見である。日本にも旧石器文化が存在したことが分かる。
II	保渡田八幡塚古墳	群馬町保渡田	築造当時の姿に再現された大型前方後円墳である。全面に葺石が施され、その大きさや造りから当時の豪族の権力の大きさが分かる。
	綿貫観音山古墳	高崎市綿貫町	石室まで復原整備された大型前方後円墳である。県立歴史博物館に埴輪や副葬品が展示されており、当時の豪族の権力の大きさや渡来人がもたらした技術や文化を総合的に捉えることができる。
	太田天神山古墳	太田市内ヶ島	東日本最大の大きさを持つ前方後円墳である。圧倒的な大きさから、豪族の権力の大きさを、長持ち型石棺から近畿地方の有力者との繋がりが分かる。
	塚廻り4号古墳	太田市竜舞	発掘調査をもとに埴輪列まで再現された帆立貝式古墳である。埴輪から当時の服装、装飾品、髪型などが推定できる。
III	上野国分寺跡	群馬町引間・東国府	全国に建てられた国分寺のひとつである。奈良時代に地方まで及んだ天皇の権力の強さと仏教文化の広がりが分かる。
IV	片倉製糸富岡工場 (旧官営富岡製糸場)	富岡市富岡	明治時代初期の代表的な官営模範工場である。欧米の技術を取り入れて進められた殖産興業政策の様子が分かる。

本資料集は、動画や静止画、解説文の視聴がクリックひとつで簡単にできるように、Webページ形式で作成した。デジタル資料集のため、映像資料の劣化がないこと、コンピュータの台数に応じて複数の使用者が任意に視聴できることなどが期待できる。

内容は、調べたい遺跡や文化財を選択するページ、学習方法を選択するページ、現地を取材した動画による疑似見学体験のページ、その遺跡や文化財の歴史的な価値、学習との関わりや時代背景についての解説や遺物などの関連資料を紹介するページ、児童生徒に考えるヒントを与えるページ、基本的な用語解説のページ、地図などのアクセス情報のページ、関連博物館施設などへのリンク集のページとした。

各ページの画面は、児童生徒の興味・関心を促しつつ、映像コンテンツの見やすさを優先する構成とした。また、昔の映像と現在のものとの比較や、対象の全体像と詳細部分の比較ができるような組み合わせの工夫、分かりやすい地図やイラストの使用などにより、視覚による理解を促せるようにした。更に、解説の文章表現は、正確かつ平易で、専門的・網羅的とならな

いように留意し、小中学生が授業で学ぶ内容をおさえたいうえで、発展的な内容も加味した。また、文字の大きさや字体、分量にも配慮した。

本資料集を構成するページは以下のとおりである（図1）。

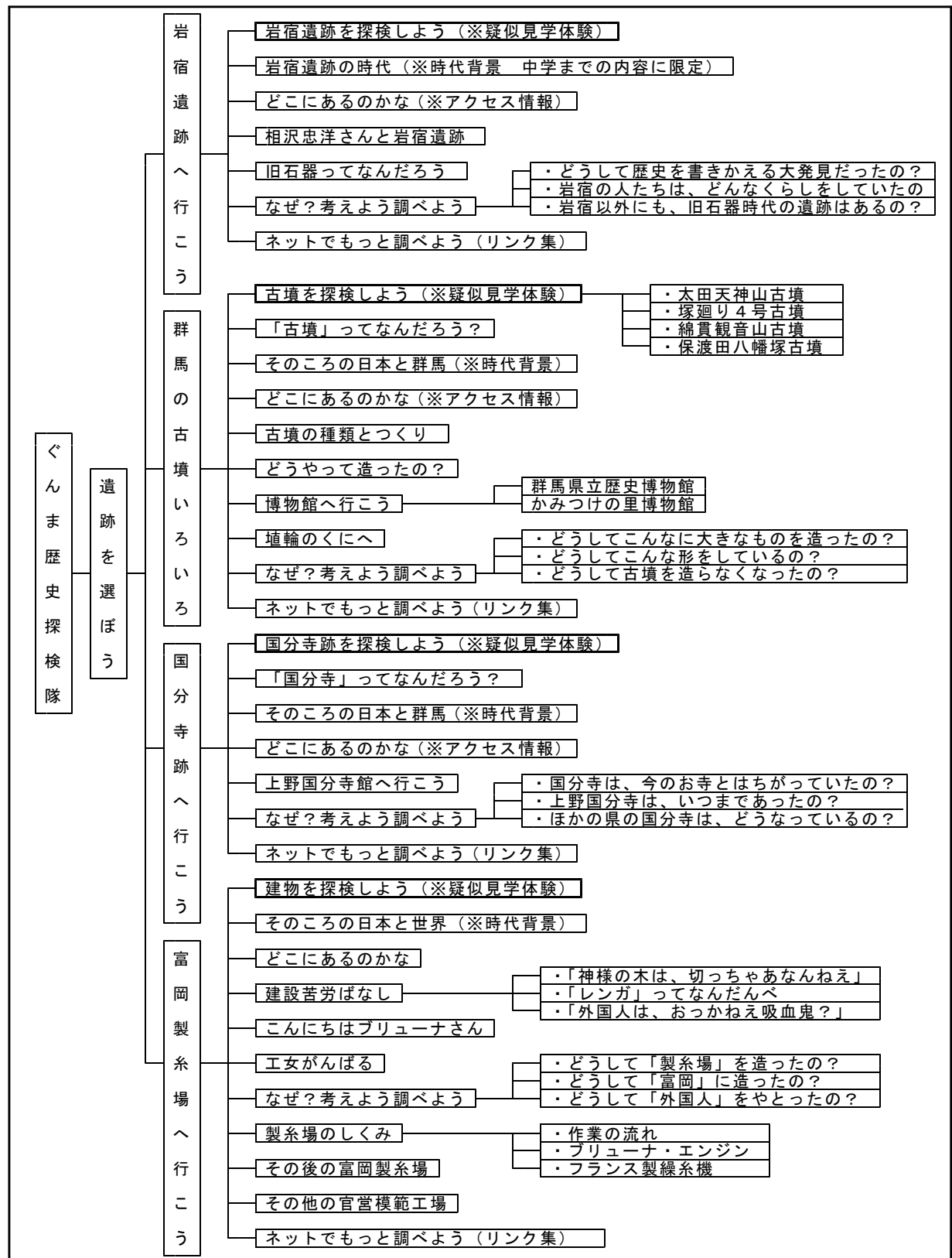


図1 ページ構成

本資料集では、遺跡や文化財取材した動画による疑似見学体験ができるようにし、それを視聴する際に二種類の使い方を想定し、以下のふたつのコースを構成した(図2)。ひとつは「はじめに見学コース」として、最初に遺跡や文化財と出会い、そこでつかませた課題について調べていく使い方である。ここでは、まず動画を視聴し、そのあとに資料や時代背景についての解説ページを順に視聴できる構成とした。

もうひとつは「自由に調べようコース」として、児童生徒が自由に資料集を使って調べ学習を行う使い方である。ここでは、メニュー画面から任意に見たいページに移動できるようにリンクを張った。

本資料集では、トップ画面に続く「学習コースを選ぼう」のページで、どちらかを選ぶことができるようにした。これにより、児童生徒が個々に視聴を行う際でも、重要度の高い内容の見落としをなくし、児童生徒が接する情報内容の極端な偏りを防ぐことができる。

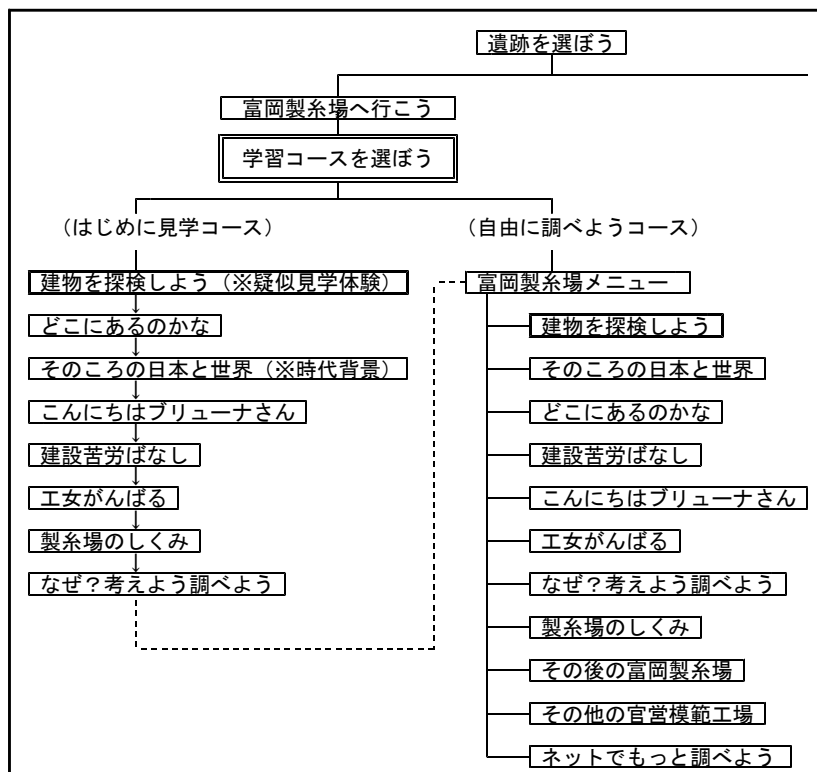


図2 コースの構成(「富岡製糸場へ行こう」の部分)

3 資料集の内容

ア タイトル～選択ページ

本資料集のCDをコンピュータにセットすると自動的にタイトルページが表示される。「次へ」をクリックすると、「岩宿遺跡へ行こう」「群馬の古墳いろいろ」「上野国分寺跡へ行こう」「富岡製糸場へ行こう」のいずれかを選択するページが表示される(図3)。視聴したい遺跡や文化財の写真をクリックすると、それぞれのトップページが表示される。更に、次に進むと、「学習コースを選ぼう」のページが表示され、ここで「はじめに見学コース」か「自由に調べようコース」のどちらかを選ぶことができる。

イ 疑似見学体験のページ

「～を探検しよう」のページは、動画を中心にした疑似見学体験のコーナーである。見学の疑似体験として、遺跡や文化財を現地で撮影した動画を、内容ごとに30秒～1分程度のシーンに分け、サムネイル(内容を示す小さな静止画)(図4)をクリックすると、その動画を再生するウィンドウが立ち上がるようになっている。



図3 遺跡選択のページ



図4 富岡製糸場を探検しよう

動画のページ（図5）は、サムネイルごとに独立したウィンドウが立ち上がり再生されるようになっているので、そのウィンドウを閉じれば、もとのサムネイルのページに戻るようになっている。また、動画には文字による解説と音声による解説を加えて、より分かりやすいものとした。

ウ 解説のページ

その遺跡や文化財そのものの解説、場所、つくられた時代の特徴、関連の博物館や資料館に収蔵・展示されている遺物などの関連資料について、動画や静止画に文字による説明を加えて解説のページとした（図6）。

「学習コースを選ぼう」のページで「はじめに見学コース」を選ぶと、その遺跡や文化財を理解するうえで必要不可欠と思われる内容の解説ページだけを順に視聴できるように設定されている。また、「自由に調べようコース」を選ぶと、「メニュー」のページから、任意に視聴したい解説ページを表示することができる。

ここでは、本資料集作成にあたり現地取材を行って撮影した映像コンテンツの他に、県教育委員会が制作した映画やテレビ番組の中から抽出したのもも収録した。この中には、現在では撮影困難な映像も含まれている。

エ 人々の思いや願いに関するページ

特に富岡製糸場に関しては、新しい時代づくりを支えた人々の「思い」や「願い」に気付かせるために、「建設苦労ばなし」として当時外国人の指導のもとに造られた洋式工場建設時の裏話や「工女がんばる」として全国から集められた工女の苦労や意気込みなどを紹介するページを作成した（図7）。ここでは、残された映像資料が少ないため、図やイラスト、文章表現を工夫して分かりやすいものにした。

V 授業実践

今回の授業実践では、本資料集4部構成のうち、「富岡製糸場へ行こう」の部分を使用して、以下のような授業実践を行った。

1 授業実践計画

対象	藤岡市立平井小学校 6年 27名（於平井小学校コンピュータールーム）
単元名	「日本の歴史」小単元「明治維新をつくりあげた人々」
ねらい	黒船の来航、明治維新、文明開化、大日本帝国憲法の発布など幕末から明治初期にかけての出来事に関心をもち、我が国が欧米の技術や文化を取り入れつつ諸改革を行って近代化を進めたことを理解できるようにするとともに、我が国の近代化に貢献した先人の努力を思う心情を育てる。
期間・指導時数	9月29日～10月13日 7時間
授業者	長期研修員 黒澤 隆



図5 富岡製糸場の動画



図6 ブリュナの解説



図7 建設苦労ばなし

2 単元指導計画


ね ら い	時	主 な 学 習 活 動	評 価 の 観 点
・黒船の来航について調べ、当時の日本と欧米諸国との関係を知り、単元全体の学習課題をつかむ。	1	・教科書の絵や教師が用意した映像資料を見て、黒船の来航の意味とその後の影響について考える。	・資料から読み取れることや疑問に思ったことを書いたり発表したりできる。
・明治政府の中心となった人たちについて調べ、どのような人たちが新しい世の中をつくるために働いたかを知る。	1	・勝海舟、西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允について、教科書や資料集で調べワークシートにまとめる。	・3人の出身や業績についてまとめることができる。 ・どのような思いを持って活動していたかを想像できる。
・明治政府が行った改革について調べ、江戸時代との違いを知る。	1	・五箇条の御誓文、廃藩置県、四民平等について調べ、政府がどんな世の中にしようとしたのかを考える。	・明治時代は、制度上どのような点で新しくなったのかをまとめることができる。
・富岡製糸場について調べ、その歴史的な価値に気付くとともに、当時の人々の思いや願いについて考える。	1 (本時)	・資料集「ぐんま歴史探検隊」を使って富岡製糸場について調べ、分かったことをまとめる。 ・富岡製糸場建設の背景や当時の人々の思い、願いについて考える。	・資料集を視聴し、ワークシートに記入することができる。
・様々な近代化政策や欧米風の生活・文化の広がりについて調べ、世の中の大きな変化に気付く。	1	・今まで見てきた近代化政策や様々な生活の変化について、ワークシートにまとめる。	・調べたことをもとにワークシートに記入することができる。
・自由民権運動から国会開設についての流れを調べ、欧米に倣った政治の仕組みが徐々に整えられていったことを知る。	1	・自由民権運動と国会開設について教科書や資料集で調べる。	・調べたことをもとに、ワークシートに記入することができる。
・幕末から明治への大きな社会の変化について確認する。	1	・明治時代のイメージを発表する。 ・評価テストを行う。	・自分なりの考えを発表することができる。

3 検証計画（本資料集の使用に関する検証）

検 証 の 観 点	検 証 の 方 法
本資料集の使用により、富岡製糸場の様子が分かり、その歴史的な価値に気付くことができたか。 ・外国の進んだ技術を取り入れた日本で最初の近代的な製糸場で、代表的な官営模範工場であったこと。 ・欧米の進んだ技術を積極的に取り入れて工業の近代化が図られたこと。 ・当時の人々が多くの困難を乗り越えて近代的な工場建設に取り組んだこと。	授業記録（児童の発言）の分析、ワークシートの記録、授業後のアンケート調査、自作単元テストによる理解度の分析により、左記の内容に関わる記述があるかを見る。
本資料集を使用することで、郷土の遺跡や文化財への興味・関心を促し、群馬県についての理解や愛着を深めることに繋がったか。	ワークシートの記録（感想欄）、授業後のアンケート調査、を分析し、群馬県を見直した旨の記述があるかを見る。

4 本時の展開

	学 習 活 動	支 援 及 び 留 意 点	評 価 の 観 点
つ か む	○富岡製糸場のキーストーン（明治五年と刻印）の写真を見て、これが何かを考える。 ○富岡製糸場について調べることを知る。 富岡製糸場が貴重なのは、なぜだろう。 ○資料集「ぐんま歴史探検隊」の「富岡製糸場へ行こう」「はじめに見学コース」に従い、ビデオによる疑似見学体験を行う。	○プロジェクターで拡大して投影する。 ○富岡製糸場を世界遺産に登録しようという動きがあることを紹介する。 ○児童一人が1台のコンピュータを使用し、資料集を視聴する。	・教師の発言に反応し、富岡製糸場に対して興味を示している。 ・コンピュータを操作し進んで動画を視聴して

つ か む	<p>○富岡製糸場が貴重な理由について、ビデオを見て気付いたことをワークシートに記入し、発表し合う。</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・建物が大きいから。 ・レンガ造りだったから。 ・洋風の建築物だから。 <p>○他にもあるか考え、予想を立てる。</p>	<p>○考えを紹介し合うことで多様な視点に気付かせる。自分では思い付かなくても、発表を聞いて必要と感じた事項はメモをとらせる。</p> <p>○既習知識をもとに、できる範囲でその理由（仮説）を考えさせる。</p>	<p>いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビデオ視聴により分かったことをワークシートに記入できる。
調 べ る	<p>○資料集「ぐんま歴史探検隊」の「富岡製糸場へ行こう」を視聴しながら、分かったことをワークシートに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・官営模範工場であったこと ・「製糸場」だった理由 ・外国の先進技術を導入したこと ・多くの困難を克服して建設されたことなど 	<p>○コースに沿って一通り視聴した後は、メニュー画面から自由に選んで調べさせる。</p> <p>○用意した関連図書なども使用させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・富岡製糸場の歴史的な価値に気づき、ワークシートにまとめることができる。
ま と め る	<p>○富岡製糸場について分かったことを発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>確認事項（貴重な理由）</p> <p>富岡製糸場は、日本で最初にフランスの器械製糸を導入した官営工場で、多くの困難を乗り越えて建設され、その後の製糸工場の手本となった。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○富岡製糸場をアピールする文を考える。 ○発表を聞く。 ○教師のまとめを聞く。 	<p>○同じく官営工場であった「新町屑糸紡績所」を紹介し、当時の群馬県は日本の製糸工業の近代化のための中心地であったことを確認する。</p> <p>○資料集で調べたことをもとに考えさせる。</p> <p>○数名のものを指名して紹介する。</p> <p>○次時への繋がりを話して終わる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめたことを発表できる。 ・富岡製糸場の歴史的な価値を盛り込んだ文が書ける。

5 結果と考察

(1) 授業の実際

本実践では、富岡製糸場を世界遺産に登録する活動を紹介し、「富岡製糸場が貴重なのはなぜか」という課題を解決するための手掛かりとして本資料集を使用した。まず、動画による疑似見学体験「富岡製糸場を探検しよう」のページを視聴し、次に各解説のページを視聴しながら分かった事柄をワークシートに記入していった。児童は画面に集中し、次々にクリックしては動画を再生していた。中には同じ場面を繰り返し見ている児童もいた。解説のページについても、画像を切り替えたり解説文を読んだりしながら、視聴を進めることができた（図8）。操作上の問題も特に見られず、マウスのクリックだけで希望のページを表示することができていた。

このように画面に見入る児童の姿からは、富岡製糸場に対する興味・関心の高まりを感じることができた。ただ、児童は、教師が予想した以上に丁寧に視聴したため、全員がすべての内容を視聴し終わるためには、予定した時間では不足であった。

本資料集の使用に対しては、学級の8割以上の児童が「新しい発見があった。」「面白かった。」「よく分かった。」と回答している。その理由は「ビデオがあったのでよく分かった。（7名）」「説明の文が分かりやすかった。（5名）」「写真がたくさんあってよく分かった。（4名）」「パソコンなので面白かった。（3名）」「知らなかったことがよく分かった。（2名）」などであった。それは、疑似見学体験として現地を取材した動画を使用したこと、関連資料なども含めて豊富な写真資料を用意したこと、平易で適切な量と内容の解説を加えたこと、動画や静止画に文章による解説を適切に組み合わせることなどの工夫

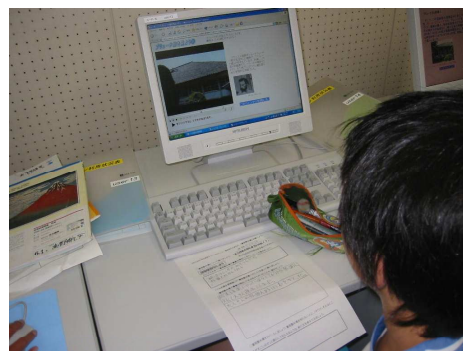


図8 本資料集視聴の様子

によるものと考えられる。

(2) 歴史的な価値の気付き

本資料集を使用した授業の後に行った富岡製糸場の理解に関する調査では、図9にあるように、「外国人技師がやとわれたこと（13名）」「製糸場が造られた理由（12名）」「現在の建物などの様子（11名）」「富岡製糸場が歴史上貴重な理由（6名）」などが分かったとしている児童

が多く見られた。「外国人技師がやとわれたこと」では、「日本が外国に追いつこうと外国人をやとったことなどがよく分かった。」「ブリューナのことももっと調べてみたい。」「フランス人が働いていたので驚いた。」などの感想から、富岡製糸場の成り立ちに関わる大きな特徴のひとつに気付いていたことが分かる。また「現在の建物などの様子」では、「明治時代に建てられた、珍しいレンガの建物だということが分かった。」「富岡製糸場に行ってみたくになった。」「どんな場所かよく分かった。」などの感想から、富岡製糸場の具体的なイメージを持つことができたと考える。「製糸場が造られた理由」や「富岡製糸場が貴重な理由」では、「私は富岡製糸場については名前しか知りませんでした。が、学習してどこが貴重だか、どんなところがすごいのかがよく分かり面白かったです。」「上毛かるたで知っていたが、改めて世の中を発展させるために役立ったすごいところなんだなあと思った。」との感想から、その歴史的な価値に気付いていたことが分かる。「富岡製糸場が貴重な理由」として、「レンガ造りの当時の建物がそのまま残っている。」という現在の文化財としての価値を挙げた児童もいたが、図10の児童のように、富岡製糸場を「近代国家としての発展を目指した時代の象徴的な工場」として時代背景や人々の思いまで含めてとらえられている者も見られた。

これらのことから、「富岡製糸場の様子が分かり、その歴史的な価値に気付く」という点で、本資料集が役立ったものと考えられる。

次に、単元終了後に実施した自作テスト中

の富岡製糸場に関する設問で、「富岡製糸場のような工場が造られたのは、政府がどんなことを目指していたからですか。」という問いに対して、「工業の近代化を進めたいから。」「国を豊かにしたいから。」「外国に早く追いつきたいから。」などの解答を記述できたのは23名、「政府が大変高額な給料を払ってまで外国人技術者をやとったのはなぜでしょう。」の問いに対して、「外国の進んだ技術を取り入れたかったから。」との解答が17名、「当時の日本は遅れていたから。」との解答が7名であった。

学習のまとめとして使用したワークシートの「明治時代を一言で言ったらどんな時代だったと言えますか。」に対する記述には「発展を目指した（発展した）時代」「多くのことが新しくなった時代」「外国から新しいものがたくさん入ってきた時代」などの記述が多く見られた。

これらのことから、児童が本資料集を使用することで、富岡製糸場そのものの理解にとどまらず、「明治」という時代について「近代化を目指して国を挙げて取り組んだ時代」ととらえることができた。更に、「明治時代」のイメージとして工業の近代化について言及している児童が多いことから、その一例として取り上げた富岡製糸場についての理解が、充分になされた

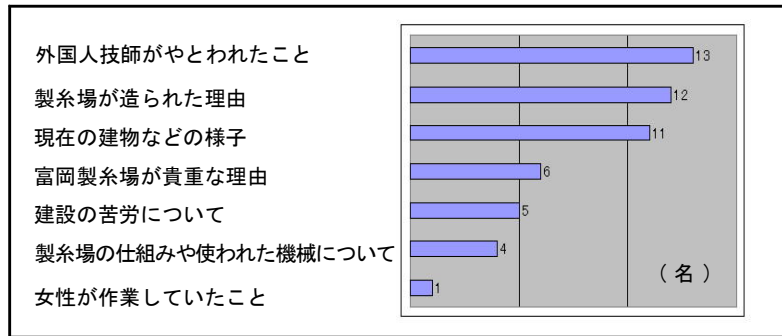


図9 「富岡製糸場についてわかったこと」

「富岡製糸場が貴重な理由」やそのほかわかったことを、書きましょう。

日本を外国に負けない強い国にしたいと考えた。
富岡製糸場は政府の考えのもとに造られた。
外国(特にヨーロッパ)から優れた技術を持つ専門家をよって日本の近代化のため働いてもらった
さいしんのきかいを使って糸をとった。

図10 ワークシートの記述

ためと考えられる。

(3) 郷土意識の高まり

事後アンケートの「群馬県に富岡製糸場のような歴史上の建物があつたことについて、どう思いましたか。」の問いに対して、「富岡製糸場のようなものが群馬県にあつて驚いた。群馬には古墳ぐらいしかないと思っていた。」「群馬県には地味なイメージしかなかったけれど自分の県にこういうものがあつてうれしい。」「群馬県にはいろんな遺跡があることが分かつた。群馬県には昔からすごいところがたくさんあつたんだなと思った。」「群馬県はすごいところなんだなあと思えるようになった。」など、群馬県のイメージアップに繋がるとらえ方をしてきた児童が22名にのぼつた。また、感想として「上毛かるたで知つていたけれど、良く意味が分からなかつたので、今回知ることができてよかつた。」「『日本で最初の富岡製糸』の意味が初めて分かつた。」「富岡製糸場がそんなに有名で大切なものだとは知らなかつた。いろいろと分かつて面白かつた。」など、多くの児童から群馬県や富岡製糸場への認識の高まりをうかがわせる記述が見られた。

これらのことから、ふだん「郷土としての群馬県」を意識することが少ない児童でも、今回の学習を通して群馬県を見直し、誇りと愛着を感じることができたと考える。

VI 研究のまとめと今後の課題

1 まとめ

本研究を通して以下のようなことが明らかになつた。

- 教材化に適した遺跡や文化財を精選してその歴史的な価値を焦点化させる資料やエピソードを収集したこと、疑似見学体験として現地を取材した動画を使用したこと、関連資料なども含めて豊富な写真資料を用意したこと、平易で適切な量の文字による解説を加えたことなどにより、遺跡や文化財の様子が分かり、それらが持つ歴史的な価値に気付かせることができる資料集が作成できた。
- 群馬県の遺跡や文化財を歴史学習の素材として取り上げることで、これまで見過ごしていた郷土の良さに気付かせることができた。郷土を知り、その良さに気付く機会を与えることで、郷土に対する誇りと愛着を感じさせ、郷土意識を高めるきっかけとすることができた。

2 今後の課題

本資料集について今後、以下の課題を解決していく必要があると考える。

- 実際に授業に使用しながら、視聴内容や使用場面について更に検討し、適切な使用方法を確立する。
- 群馬県内には、本資料集に取り上げなかつた遺跡や文化財でも、小、中学校の社会科学習に活用できる素材がまだ多数ある。(月夜野町矢瀬遺跡：縄文時代、太田市金山城：室町時代、松井田町碓氷関所跡：江戸時代など) これらの遺跡や文化財についても、順次教材化に取り組み、コンテンツの充実を図る。

<参考文献>

- ・相沢 忠洋 著 『岩宿の発見』 筑摩書房 (1977)
- ・群馬県立歴史博物館 『第63回企画展図録 観音山古墳と東アジア世界』(1999) 『第49回企画展図録 近代群馬の歩み』(1994) 『第57回企画展図録 ふたつの製糸工場』(1997)
- ・かみつけの里博物館 『常設展示解説書 よみがえる五世紀の世界』(1999) 『第7回特別展図録 はにわ群像を読み解く』(2000)